

〈編集後記〉

月報第 562・563・564 合併号をお届けします。本号は社研創立 60 周年記念号として編集されました。専修大学社会科学研究所は 1949 年 4 月に、専修大学が新制の大学に移行するのに伴い、創設されました。昨年 2009 年は創立 60 周年にあたり、記念事業を企画しました。まずは檀国大学との合同研究会で、2009 年 10 月 24 日に神田校舎国際会議室で「世界同時不況下の日韓経済・企業システム」をテーマに双方から 2 名ずつの報告者とコメンテーターを立てて熱心な議論が繰り広げられました。奇しくも同日の 80 年前にニューヨーク証券市場で大暴落が生じたのであり、ブロック化からブロック間抗争、果ては世界大戦へと突き進んでしまった 1930 年代と同じ轍は踏まぬことを銘じました。私の報告の折、自前のパソコンを使用しました。その折、壁紙に使っている長野の松代の木造駅舎の写真が映し出されたので、敗戦間際この地に地下壕を作り、皇室、大本営等に移そうとしたことを紹介しましたところ、Jae-Hwa, Choi 先生から、先生のおじ様がこの地下壕で大けがを負い、解放後韓国に帰国されたことを伺いました。これから未来を正しく築いていくために、歴史をしっかりと学ばなければならないと思いを強くした次第でした。

次に 60 周年記念公開シンポジウムを企画し、そのテーマを「今、なぜ『資本論』なのか？」に設定し、2 回に分けて行いました。第 1 回は「『資本論』から現代を読む」をテーマに 11 月 17 日に、基調報告者としての場昭弘先生をお招きし、生田校舎 702 教室で行いました。参加者 133 名の盛況でした。第 2 回は「今日の貧困と『資本論』」をテーマに 12 月 16 日に、基調報告者として伍賀一道先生をお招きし、生田校舎 131 教室で行いました。参加者 163 名の盛況でした。両シンポジウムの盛況ぶりは本号で確認いただけたと思います。

ここで改めて檀国大学の Joo-Tae, Kim 先生、Jong-Gon, Yang 先生、Jae-Hwa, Choi 先生、Sang-Hyuk, Lim 先生、ならびに的場昭弘先生、伍賀一道先生に感謝申し上げます。

さて月報は昨年度までに 561 号刊行されています。月報ですので、年に 12 号刊行されるわけですから、561 号ということは毎月刊行されていれば、約 47 年分ですので、数が合わないこととなります。HP で調べてみますと、実は社研には休眠期間があり、それも 1951 年から 1963 年まであって、1963 年 4 月に山田盛太郎先生が第 3 代所長に発令され、9 月に第 1 回所員総会が開催され、ここで社研が再発足され、翌 10 月に月報第 1 号が発行された由。それならだいたい数は合うわけですが。それにしても休眠状態の社研を再発足させるにはただならぬ努力とエネルギーが必要になったと思われまふ。この 5 月に第 95 回所員総会を開催しました。総会は年 2 回開催されますので、数も合うわけですが。現在の社研のスタイルはこの 1963 年に原型がほぼできたのではないかと思った次第です。というより、1963 年に捲かれたゼンマイで今も動いているのかなと思いが過りました。(TM)

神奈川県川崎市多摩区東三田 2 丁目 1 番 1 号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

(発行者) 町田俊彦

製作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前 2-10-2 電話 (03)3404-2561
